

ガタガタ通信

MIZUBE NI ASOBU KAI

No. 17

2003・秋の号

発行
水辺に遊ぶ会

大分県中津市中央町2-8-35
TEL&FAX: 0979-23-5320

ガタガタ通信独占スクープ 中津干潟でピカチュウ発見?

『隊長大変です!! 中津干潟でポケンモンゲットです!!』
アヤシイ干潟調査隊のもとに情報
がもたらされたのは、暑さでダラダラしている夏休みの昼下がりだった。ちょうど人気は下がり気味なれど、お子様にチヨー人気のポケモン、しかもピカチュウをゲットしたと聞いては寝ちゃいられない。さっそく取材に突撃したのだった。

▼ピカチュウをゲットしたのはサトシ(よい子の読者は知つても、大人は知らないか)ではなく、我らが水辺に遊び会顧問シエル博士のヤマシタハカセだつた。大新田の田んぼの脇の用水路の葉っぱの下に隠れているところを発見したそうだ。ピカチュウの木の名前はスジイリカワゴザラ。ボケモソ博士のオーキドハカセもついで、琵琶湖から報告されていましたが、いまだかつてスジイリカワゴザラの棲息を確認したという人がいることはなんだかスゴイぞ! また新しい中津干潟神話が生まれそうだし!!

その後全く報告例がありません。私は今年で貝をいじり始めて33年目になりますが、いまだかつてスジイリカワゴザラの棲息を確認したという人がいることはなんだかスゴイぞ! また新しい中津干潟神話が生まれそうだし!!

▼貝大好き隊の方々は手に手にチャック付き袋を持って見せあいしている貝が大切に入っていた。なんだポケモントンカード自慢している子どもといっしょでラッキー。

■前回発行の夏の号、ホントは16号なのに15号と記載して発行しちゃいました。ここにお詫びと訂正をします。ゴメンナサイ。(う)

なつやすみの日記

今日、中津干潟ナイトクルージングに行った。ナビゲーターはナイスな海の男K I YOSHIさんだ。いつも歩いている場所なのに、まくらで潮が満ちている海はちょっとこわい。海の上をしばらく行くと船のサーチライトめがけて大きな魚が飛んだ。細くて長くてきらきら光っている魚が、何匹も何匹もまるで鳥のように海の上を飛んでいく。すっごく感動して、むねがドキドキした。K I YOSHIさんが「あれはダツだ」と教えてくれた。いつも遊んでいる海にあんな魚がいるなんてすごいと思った。K I YOSHIさんもかっこよかった。それから、おみやげにもらったカニもおいしかった。

■水辺に遊ぶ会の活動報告

(2003.7.1~2003.9.30)

- 2003.7. 4 塩田の歴史ヒアリング調査
- 2003.7. 5 シギチドリ調査
- 2003.7.10 NHKテレビ取材
- 2003.7.12 シギチドリ調査
- 2003.7.13 第2回大新田ビーチクリーン
- 2003.7.16 浅海研究所へカブトガニ標識調査への協力依頼
- 2003.7.19 カブトガニヒアリング調査
- 2003.7.20 九重「風と水と大地の祭り」(地球風主催)参加
- 2003.7.26 夏休み干潟観察会
- 2003.7.27 舞手川河口調査
- 2003.7.28 中津市教職員組合理科部会干潟観察会講師
- 2003.7.30 豊前理科学会と干潟感察
- 2003.8.2~3 山口貝類研究談話会中津大会協力(大会・観察会)
- 2003.8. 3 カブトガニ調査
- 2003.8.11~12 シギチドリ調査
- 2003.8.12 浦安市郷土博物館見学
- 2003.8.21~22 濑戸内海研究フォーラム in 大分参加
- 2003.8.23~24 シギチドリ調査
- 2003.8.24 舞手川河口調査
- 2003.8.25 アカテガニ観察会下見
- 2003.8.26 アカテガニ観察会
- 2003.8.27 貝類調査同行(山下氏・福田氏)
- 2003.8.30~31 秋のシギチドリ動向調査
- 2003.9. 2 舞手川河口植生調査同行
- 2003.9. 6~7 シギチドリ調査
- 2003.9. 7 映画「森の学校」自主上映会
- 2003.9.13 シギチドリ調査
- 2003.9.14 荒瀬井路見学会参加
- 2003.9.15 大分県生活環境課打合せ
- 2003.9.17 大幅公民館女性学級講師
- 2003.9.20~21 シギチドリ調査
- 2003.9.21 舞手川河口調査
- 2003.9.27 シギチドリ調査
- 2003.7.12~19・26 8.3~9.16~24・30 9.7~14 カブトガニ標識調査

秋のイベント!!

寒いけど海に行こうよ!! ビーチコーミング in 三百間の浜

12月7日(日)PM 1:30~4:00

集合場所:新大塚終末処理場前

★浜にはフシギがいっぱいだ!!
ワタシだけの海の宝物をさがして、広い砂浜を歩いてみよう。

詳細はチラシを見てね。

伝言板

映画「森の学校」にご来場ありがとうございました。便利なものは何もなかったけど、自然と時間は今よりもたくさんあった古き良き時代を想い出させてくれる映画でした。たくさんのみなさまのご協力にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

秋の催しあらせ!

科学の祭典

11月29~30日 大分県立科学館にて
水辺に遊ぶ会の展示ブースがあります。この秋新作の「トランクミュージアム」も初お目見え!! 遊びに来てね。

おおいた自然保護のつどい

11月29~30日(1泊2日・有料)
久住スポーツ研修センター

大分県主催・自然保護活動を行う団体や自然体験活動の指導者の情報交換と幅広い活動を図るためのシンポジウムです。興味のある方は水辺に遊ぶ会事務局まで。

会員募集中!

年会費1000円
事務局まで
お問い合わせ下さい。

今年最後のおそろじテスト
大新田ビーチクリーン

★12月7日(日)だよ! 11:00~12:00

水辺に遊ぶ会MUSEUM

水辺に遊ぶ会ミュージアムは「建物のない博物館」です!

<http://www.geocities.jp/kabunykun/index.html>

ホームページものぞいてみてね!

ご意見・ご感想など、みなさまの声をお待ちしています。

URL:<http://www.max.hi-ho.ne.jp/y-ashikaga/>
e-mail:mizube1999@yahoo.co.jp

MIZUBE ライブラリー

海辺に親しむ

海岸を知り、楽しむためのガイドブック
監修：財)河川環境管理財団
編著：「海辺に親しむ」編集委員会
発行：株)山海堂 定価：2,200円

★海のことってわかっていないそうで、意外にわかっていないんだな。海の魅力や素晴らしさ、そして危険を回避するための方法など、海で遊ぶための道案内が一冊にググッと凝縮された本です。水辺に遊ぶ会のアイドルティーチャー(?!セーノセンセも編集委員で登場します!!

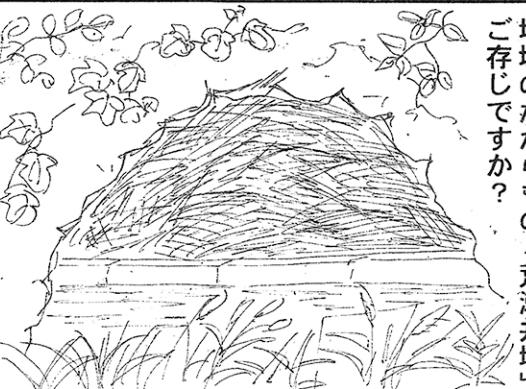
★購入希望の方は水辺に遊ぶ会事務局までご一報下さい。



▼告白、山国川の取水口から旧耶馬溪鉄道に沿うようにつながつて、いるその流れを追いかけてみました。補修を重ね、現在では完全にコンクリート水路となつて、いる井堰ですが、山国川とその支流からの水を一滴も漏らさぬよう、そして田畠に均等に流れるよう、といふ工夫が隨所で見られたり、かつての手彫りの跡がしのばれるトンネルも一部に残つていました。三光村役場まで来ると、今度は本格的に市内に水量を分配する地點があります。ここから傘鉢を出す一九地区にきちんと枝分かれして農業用水として流れていきます。

▼この事業を興し推進したのは笠原長胤と、今津・斎瀬・佐知の大庄屋さん達だそうですが、「堀り肩一升、錢一升」とも言われたこの大工事にかり出された無名の人々の当時の生活を知るすべがないのがとても残念です。

郷土史を歩きながら調べているグループの皆さんに連れていくつていました。ありがとうございました。



▼毎年八月の終わりの鶴市のお祭りに塙鉾行列を出す地区すべての田んぼの農業用水の源は山国川ですが、さて、この水はどんな所をどうやって通つてくるでしよう? 一六八九年に完成してから現在に至るまで、なんと三一四年間も中津の田んぼに水を運び続けている地域のたからもの「荒瀬井堰」を存じですか?

堀の脇一升、錢一升
荒瀬井堀を歩く。

天からの恵み、生命の源…水。
昔の人は水とのつきあい方をちゃんと
知っていた。今の人間よりずうと。
私たちは、昔の人々からもつともつと学ぶべきなのかもしれないね。

私たちは、昔の人々からもつともつと学ぶべきなのかもしれないね。

▼大新田の浜には様々な逸話を裏付ける祠が点々と実在します。海からやつて来た出来事がきちんと受け継がれている証拠でもあり長年海と向き合いつき合ってきた地元の人々の生活の知恵でもあるのではないかと思います。白髭神社のお祭りも海でつちかつてきた知恵を駆使したエネルギーの賜物なのかもしません。

▼大新田の浜周辺にはたくさんの神社がありますが、白髭神社は浜との縁が深い神社と聞きます。この白髭神社では中津藩主との深いつながりから、今も「年ごとに「大名行列」が秋の大祭で行われます。町内のお年寄りから幼児まで、皆それぞれに大名行列の衣装をつけて「しゃぐま」と呼ばれる毛槍を先頭に大新田地区のメインストリートを練り歩く地域密着型のお祭りです。毛槍を持った助六姿の男性が移動しながら毛槍を投げて交換すると、沿道から拍手が起り、すっ

「これもみな
長ーい柄が
ついでる。」

「こほらの道具は
歴史民族資料館
で見学するやうだ。」

「塩田で使う道具は
かたてて反らない
エミンの木を
使って作らねど。」

「塩田に
海水をまく“あげ”

「塩をたくさん
含んだ砂を
一か所によせ集める
“くわ”」

「塩田の道具」

レーベンホーん思い出を語る 私の大新田時代（その七）

初盆の家を順に回り(夜前庭で男入り混じつて大きい踊りの輪をつくり、歌の上手な人の歌声に合わせ踊る。皆浴衣を着て中央に櫓をつくり歌の上手な人(音頭取りが音頭をとると云う形式でなく、歌う人も輪の中に入り昔から歌いつがれた「クドキ」というものが主だつた。終わると女や子供はお菓子を頂き男性はコップ酒や冷やしそうめん等をご馳走になつた。こんな夜を機に若い男女のカップルも誕生したり。

(二) 元旦の汐汲み

元旦の早朝、竹で作つた小さな筒と笛の小枝を持つて家長が海に汐汲みに行く。波打際で汐を汲み笛を汐の入つた筒にさして、海岸から自ら自らはらいをして拝礼。残りを家に持ち帰つて家の神棚を同じおはらいをして、神社で汐に笛を浸しておはらいをして拝礼。新年を祝い健た後、家族一同拝礼。新年を祝い健康、室内安全を祈願した後おとそ、お雑煮を頂く。我が家では父親の死後は長女の私と妹が一緒に汐汲みをして神社にお参りした。汐を汲む時大人のように上手に汲めず打ち寄せる波で足をぬらし泣きたいように冷たかつたのを今も思い出す。私の十才の頃です。